

2 実践計画 前期2か年の各事業評価

基本計画	1 みんなで支え合う地域づくり
実践目標	地域交流の推進と心とからだの健康づくり
実践計画(個別事業)	地域交流サロン

令和5年度 事業目標	既存サロンへの支援方法の再検討
---------------	-----------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	①研修会の企画、活動助成金の見直し。	年1回、地域交流サロン研修会を開催し、情報の提供やサロン間での情報交換を行う。活動内容によって助成金額を分類することを検討する。	サロンの質が向上し、誰もが気軽に参加できる活動に近づく。
	②生活支援コーディネーターを配置する。	活動への参加、電話や文書等の手段でサロンの活動状況や課題等を把握する。チラシや広報紙等を活用し、サロン活動の普及啓発を行う。	サロンの実状を把握して、必要な支援が明確となる。新規参加者の増加。
評価	①研修会を1回開催した。活動助成金を整備している。	サロン活動の継続と活性化を目的として研修会を開催し、外部講師の講話とサロン世話人同士の情報交換の場を設けた。活動の内容によって助成金額を分類することの検討は進められなかった。	地域交流サロン研修会には29名が参加。新規サロンが2カ所開設した。その一方、参加者減少等を理由に2カ所のサロンが解散した。活動内容が麻雀や体操等の特定の活動に限定されており、サークル活動に近いサロンもある。サロンに参加したことのない人にもわかりやすいよう、活動内容によって、サロンを細分化するなどの整理をしていく必要性がある。
	②生活支援コーディネーターを配置した。	活動助成金の申請手続き、出前講座等の情報提供などの際にサロンの活動状況や課題の聞き取りを行うように努めた。必要性が高いと考えられるサロンに対して、周辺地域への周知活動を行うきっかけとなる働きかけとして、新しいチラシを作成した。	チラシ作成等の働きかけによって、周辺地域への周知活動を行うサロンがあった。ただし、周知活動によって、新規参加者がどれほど増加したかは把握できていない。サロン世話人の高齢化が進んでいるが、それに対してどのような支援が有効か検討できていない。
総合	小評価(5点)		
3	4	3	3

○総合評価～特定の活動に限定されているサロンの整理がまだできていないため「3」

基本計画	1 みんなで支え合う地域づくり
実践目標	地域交流の推進と心とからだの健康づくり・障がい者の社会参加の促進
実践計画(個別事業)	喫茶はっぴい～

令和5年度 事業目標	運営体制と周知活動を強化し安定的な事業継続を図る
---------------	--------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	本事業の周知活動の強化と接客方法を工夫する。	ボランティア、利用者の増員を図る。 情報発信の方法を工夫する。 ボランティアとの意見交換会や利用者を含めた研修会を定期的開催する。	来店者が増え、売上げが回復する。 ボランティア、利用者、職員の三者の共通認識が形成され効果的な運営が促進される。
評価	年度当初より、ボランティア、利用者はともに減員となり、利用者は3名体制となった。次年度より企業の社会貢献にてボランティアを補充することとなった。	ボランティア、利用者との意見交換、研修会を開催した。新たなフード・ドリンクメニューを追加した。社協だよりを活用し情報発信を行なった。	意見交換会や研修を通してボランティア・利用者・職員の共通認識が醸成された。コロナ禍に比して売上げが回復した。安定した運営に必要な人員を満たすことはできなかった。
総合	小評価(5点)		
3	2	3	3

○総合評価～コロナ禍後売上げは回復しつつあるが、まだ安定した運営には至っていないため「3」

基本計画	1 みんなで支え合う地域づくり
実践目標	地域交流の推進と心とからだの健康づくり
実践計画(個別事業)	認知症カフェ

令和5年度 事業目標	コミュニティサポーターが主体となりコミサポカフェを定期開催する。
---------------	----------------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	コミサポカフェ担当者による実行委員会を設置する。	コミュニティサポーターが主体的に関われるような連絡調整を行う。	コミュニティサポーターが主体となり、コミサポカフェを定期開催できる。
評価	実行委員会は設置しなかったが、開催に向けた打ち合わせの場を設けた。	コミュニティサポーターの意見を取り入れた内容とすることで主体的な取り組みとなると考えた。そのため、コミサポカフェの振り返りと次回開催に向けた打ち合わせを繰り返し行い、コミュニティサポーターの意見を反映できるようにした。当日の運営や参加者が楽しめる企画について、帯広大谷短期大学介護福祉専攻の学生の協力を得た。	コミュニティサポーターが主体となり、コミサポカフェを定期開催した。回数を重ねながら、コミュニティサポーターの意見を取り入れた内容となってきた。コミュニティサポーターからは、「足の問題」で参加できない人がいるという意見が上がってきた。当該活動を町内の色々な場所に広げていくことが課題。
総合	小評価(5点)		
4	3	4	4

○総合評価～サポーターが主体となり定期開催している。足がなく参加できない方のために別会場の検討が必要のため「4」

基本計画	1 みんなで支え合う地域づくり
実践目標	地域交流の推進と心とからだの健康づくり
実践計画(個別事業)	音更町ふれあいの家

令和5年度 事業目標	空き家等を活用した交流の場の設置・運営を支援する。
---------------	---------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	空き家等を活用した住民主体の運営による交流の場の設置・運営の一部を助成する。	補助金申請書を提出してもらう。 申請内容を確認する。 立ち上げ経費(1回のみ)と運営費を補助金として交付する。 事業報告書と決算報告書を提出してもらう。	申請内容を確認し、適すると判断した団体を助成する。
評価	空き家等を活用した住民主体の運営による交流の場の設置・運営の一部を助成した。	補助金申請書を提出してもらった。 申請内容を確認し、運営費を補助金として交付した。 事業報告書と決算報告書を提出してもらった。	申請内容を確認し、適すると判断した2団体を助成した。
総合	小評価(5点)		
5	5	5	5

○総合評価～利用を希望する団体に規程の補助をすることができるため「5」

基本計画	1 みんなで支え合う地域づくり
実践目標	地域交流の推進と心とからだの健康づくり
実践計画(個別事業)	ふまねっと活動

令和5年度 事業目標	他の取り組みと統合することで、効率的で継続可能な取り組みとなる。
---------------	----------------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計 画 ・ 目 標	①ふまねっとを福祉用具の貸出の中に組み込む。	ポッチャ等のレクリエーショングッズの1つとしてふまねっとを貸し出す。	ふまねっとを貸し出すことで地域住民の交流等に活用してもらえる。
	②ふまねっとサポーターのボランティア登録を進める。	ボランティアコーディネートとして位置づけ、調整する。	ふまねっとサポーターの活動が継続できる。ふまねっとに限らず、広くボランティア活動に興味を持ってもらえる。
評 価	①ふまねっとを福祉用具の貸出の中に組み込んだ。	ポッチャ等のレクリエーショングッズの1つとしてふまねっとを貸し出した。	ふまねっとを16団体に対して延べ100回貸し出すことで、多くの地域住民の交流に活用された。団体の参加者のみでふまねっとを実施できる団体はないため、必ずサポーターの調整が必要になる。 その一方で同じレクリエーショングッズであるポッチャやモルックは何度か行うことで、参加者のみで行えるようになり、主体的な活動となっている。
	②ふまねっとサポーターのボランティア登録は進んでいない。生きいきポイントの活動に位置づけた。	ボランティアコーディネートとして位置づけ、調整する。	既存のサポーターが継続して活動しているが、新規で活動するサポーターはいない。サポーターを養成するには、NPO法人が開催するサポーター養成講座を受講する必要があり、ハードルが高い。
総合	小評価(5点)		
4	4	4	4

○総合評価～ふまねっとサポーターを他のボランティア活動につなげることがまだできていないため「4」

基本計画	1 みんなで支え合う地域づくり
実践目標	子育て世帯への支援
実践計画(個別事業)	子育てサロン運営支援

令和5年度 事業目標	子育てサロンの活動が継続していける支援体制の確保
---------------	--------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	活動助成の仕組みを検討する。 長期に渡り利用が可能な場所を検討する。	訪問、電話連絡等で活動状況を把握する。課題等を検討する。	活動継続が可能となる。 子育てサロンの抱えている課題を把握できる。
評価	活動助成の仕組みを検討し、方向性についてサロン代表者と共有しているが、正式な仕組みの立ち上げには至っていない。長期に渡り利用が可能な場所は見つかっていない。	訪問、電話連絡等で活動状況を把握している。課題等について、情報共有している。子育てサロンを通して、本会の各事業を周知に協力いただいている。	子育て世帯の居場所、ネットワークづくりの場となっている。本会の各事業に子育てサロン利用者が参加することで多世代交流につながっている。その一方、長期的な運営については、世話人の後継者がいないことや場所の問題などの課題がある。
総合	小評価(5点)		
4	3	4	4

○総合評価～活動助成のしくみと実施場所の課題の整理がまだ残っているため「4」

基本計画	1 みんなで支え合う地域づくり
実践目標	子育て世帯への支援
実践計画(個別事業)	子ども食堂の運営支援

令和5年度 事業目標	助成金交付を通じた継続的な運営支援
---------------	-------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	活動状況に応じた助成金の確保。赤い羽根共同募金助成金120,000円の範囲内を予定する。	活動状況に応じた助成金の交付。	町内子ども食堂に対し、定額の助成金を交付。(令和5年5月現在 対象3か所)
評価	当初の計画どおり120,000円の助成額を確保することができた。	各食堂の事業計画に基づき、活動に応じた助成金を交付した。	赤い羽根共同募金助成金B配分120,000円のうち、3か所の食堂へ40,000円を定額助成し、運営の一助とした(4か所のうち1か所は不定期開催のため辞退された)。また併せて、町内企業及び農家から寄贈いただいた物資(野菜・牛乳)の提供を行った。(物資については4か所へ提供)
総合	小評価(5点)		
5	5	5	5

○総合評価～共同募金、町内企業、農家から寄贈いただいた物資を提供できているため「5」

基本計画	1 みんなで支え合う地域づくり
実践目標	子育て世帯への支援
実践計画(個別事業)	ひとり親家庭支援事業

令和5年度 事業目標	効果的な実施方法を含めた、事業の継続協議
---------------	----------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	援助品購入にかかる財源(歳末たすけあい募金)の確保。	広報紙面やホームページ、SNSを活用しての事業及び募金使途の周知。	少しでも楽しいお正月を迎えていただくため、多くの対象世帯に援助品を配布する。
	効果的な実施方法と援助品の内容について、内部協議を行う。	コロナの状況により、民生委員による対面調査・配布を行うか、郵送による配布とすることを協議検討。	次年度に向けての実施内容の検討と財源確保。
評価	歳末たすけあい募金の実績が936,430円と、前年度より10万円程の減額となったが、予定の財源を確保することが出来た。	前年度対象者へ郵送による周知を行ったほか、広報誌、HP等を活用して事業周知を努めた。	112世帯(183名)と、前年度より50名程の減少となった。援助品の内容については引き続き検討が必要と思われる。(米券や牛乳券等、世帯として真に必要なものとしてものを検討)
	配付内容・方法等について内部で協議検討を行った。	内部協議の結果、前年度と同様に援助品を郵送での配布対応となった。	図書カードの配付に併せて「フードバンク事業」の案内を同封し、文書を見た数件の支援に繋がった。配布方法については、今後も郵送で定着する形での好意的な意見が多いと思われる。
総合	小評価(5点)		
3	3	3	4

○総合評価～該当世帯に真に必要なものは何か改めて検討する必要があるため「3」

基本計画	1 みんなで支え合う地域づくり
実践目標	ひとり暮らし高齢者の支援
実践計画(個別事業)	歳末ふれあい事業

令和5年度 事業目標	お便り交流の継続とウイズコロナ時代の交流方法の検討
---------------	---------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計 画 ・ 目 標	コロナ禍の終息の見通しがあるものの、過去2年間の実績と効果から、お便り交流を継続するとともに、対面形式の交流の検討を行なう。 大谷短期大学介護福祉専攻1年生、2年生の協力を得て実施する。	短大教員との打合せを実施し、事業主旨等を学生に説明する。財源である赤い羽根共同募金のPRを強化する。 無理のないスケジュール管理を行なう。	過去2年間実施したお便り交流に新たな交流の方法を付加することにより、より効果的な交流を図ることができる。
評 価	大谷短期大学介護福祉専攻2年生の協力を得て町内高齢者を対象に郵便によるお便り交流を実施した。	短大教員とのスケジュールの確認と短大生への事業説明を実施した。 昨年度の参加者への個別の案内の他、社協だよりやチラシで周知を行った。	学生及び参加者にとって無理のないスケジュールを確保し、77名(前年比6名増)の参加があった。 新たな交流方法を付加することはできなかった。
総合	小評価(5点)		
5	5	4	5

○総合評価「5」～スケジュールを確立し、短大生の全面的協力により実施できているため「5」

基本計画	1 みんなで支え合う地域づくり
実践目標	高齢者の就労支援
実践計画(個別事業)	高齢者就労センター

令和5年度 事業目標	高齢者に適した就労の場の確保と既存事業の見直し・検討
---------------	----------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	前年度からの協議・検討の継続実施。	①内部協議の他、関係機関を含めた協議・検討 ②事故防止に向けた、こまめな啓発活動の実施と作業機械の確認。	「高齢者の生きがい支援・福祉の向上」という目的を念頭に置いた就労の場づくりに努める。
評価	見直しが必要な作業について、担当部内で随時協議を実施するほか、委託業務については行政にも相談をしながら検討実施する。	①冬場に向けての除雪作業について内部検討を実施したほか、リサイクルセンター業務について今後の在り方を行政と協議。 ②軽微な事故が多い状況を踏まえて、指導員が講師となり草刈安全講習会を実施。	①除雪作業については担い手の減少により、受付件数を前年度より10件減少し実施。例年より降雪が少なかったことから大きな混乱なくシーズンを終えたが、今後現状で継続していくことについては困難と判断される。 ②「高齢者の生きがい支援」という原点に立ち返り、就労者の技術や年齢、体力に見合った就労の確保が必要である。(あくまでも「会員ファースト」の立ち位置で) ③リサイクルセンター業務の方向性について、早い段階で行政と折衝し、具体的方針を決定していく必要あり。
総合	小評価(5点)		
4	4	4	4

○総合評価～会員の生きがいを支援し、課題についてもいろいろな検討を続けているため「4」

基本計画	2 地域づくりを主体的に担う人づくり
実践目標	地域で支える仕組みづくりと担い手の養成
実践計画(個別事業)	生活支援体制整備事業

令和5年度 事業目標	事業の方向性について役場と再度検討する。
---------------	----------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	役場と協議の場を設置する。	役場と既存の取り組みに関する検討を行い、成果や課題について協議する。	事業の方向性を定める。
評価	役場と協議の場を設置した。	役場担当課とこれまでの協議体の進め方について、情報共有し、次年度以降の進め方について検討した。	次年度からの協議体の進め方について、方向性が決まった。協議体は町で運営する既存の会議に置き換え、生活支援コーディネーターは事業報告等を行い、連携していくこととなった。
総合	小評価(5点)		
4	4	4	4

○総合評価～行政と協議し、今後の協議体の方向性を確認することができたため「4」

基本計画	2 地域づくりを主体的に担う人づくり
実践目標	地域で支える仕組みづくりと担い手の養成
実践計画(個別事業)	コミュニティサポーターの養成

令和5年度 事業目標	コミュニティサポーターを養成し、活動につながるように支援する
---------------	--------------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	①コミュニティサポーター養成講座を開催する。	コミュニティサポーター養成講座の開催に向けた周知、講師調整を行う。	コミュニティサポーター登録者数が増える。
	②コミュニティサポーター連絡会・フォローアップ研修会を開催する。	サポーター同士での情報共有、交流を目的とし、連絡会を開催する。	サポーター間のネットワークの構築。情報交換や新たな課題の把握につながる。
評価	①コミュニティサポーター養成講座を開催した。	コミュニティサポーター養成講座の開催に向けた周知、講師調整を行った。	7名が養成講座を受講し、そのうちの5名がサポーター登録に至った。
	②コミュニティサポーター連絡会(1回)・フォローアップ研修会(2回)を開催した。	連絡会やフォローアップ研修会、コミサポカフェ等の活動を通じて、サポーター同士で交流する機会が多くあった。	サポーター間のネットワークが構築されてきた。登録サポーターの半数以上が何かの活動に参加している。
総合	小評価(5点)		
5	5	5	5

○総合評価～サポーターの登録数が増え、コミサポカフェの開催、情報共有・交流ができていたため「5」

基本計画	2 地域づくりを主体的に担う人づくり
実践目標	地域で支える仕組みづくりと担い手の養成
実践計画(個別事業)	ボランティアセンター事業の強化

令和5年度 事業目標	ボランティア活動の本格的な再開にかかる支援、コーディネート強化
---------------	---------------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	ウイズコロナ時代におけるボランティア活動の活性化に資する研修や相談体制の構築を行なう。	ボランティア研修会(実践者向け)の開催と養成講座の実施及び、受け入れ先の状況確認を行なう。	ボランティア活動の再開に向けた支援体制の強化と状況に応じたコーディネートの実施ができる。
評価	年度中に新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたものの、各種社会福祉施設に関しては面会制限等の感染防止策が引き続き講じられていたこともあり、需要・供給ともにコロナ禍以前の回復は見込めない状況であった。	ボランティア養成研修を開催した他、町内社会福祉施設へボランティア受入れに関する質問紙調査を実施した。	ボランティア養成研修を開催したが参加者は1名であった。社会福祉施設のボランティアの受入れは依然として再開されない状況であり、当センターのコーディネート機能も発揮されない状況であるが、ボランティア活動保険の受付数やセンター登録の個人・団体ボランティア数に大きな変化はない。
総合	小評価(5点)		
3	3	3	3

○総合評価～登録数はあるものの、施設によってはまだボランティアの受け入れが進んでいないため「3」

基本計画	2 地域づくりを主体的に担う人づくり
実践目標	地域で支える仕組みづくりと担い手の養成
実践計画(個別事業)	おとふけ生きいきポイント事業

令和5年度 事業目標	高齢者の介護予防を目的とした地域活動の展開
---------------	-----------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	事業実施に向けての内部協議(手帳交付数の増強に向けた取り組み・フォローアップ研修内容等)	①広報誌、ホームページ等を通じた事業周知及び登録研修会の実施。 ②コロナの状況に応じて、随時登録者へ活動先の情報提供を行うほか、フォローアップ研修を実施。	今後の福祉施設での活動については不透明だが、フォローアップ研修や情報提供を通じて、登録者のモチベーション維持に努めたい。
評価	手帳交付数の増強に向けた具体的な取組の一環として、コロナが5類感染症に移行したことに伴い、町内福祉施設に対し、受入可能な業務の調査を実施。	①社協だよりにて登録研修会の事業周知を実施 ②町内福祉施設での活動可能業務の情報を登録者へ情報提供	手帳交付数が95件と概ね前年度と同様となったが、登録研修については、僅か1名のみ参加であり、研修内容の再考が必要である。活動先の拡大含め協議検討が必要。
小評価(5点)			
2	2	3	2

○総合評価～コロナが5類になっても本事業対象の福祉施設でのボランティア活動が再開されていないため「2」

基本計画	2 地域づくりを主体的に担う人づくり
実践目標	地域福祉への理解の促進
実践計画(個別事業)	大谷短期大学との連携

令和5年度 事業目標	事業サイクルの確立
---------------	-----------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計 画 ・ 目 標	事業計画・評価を短大と本会にて実施・共有する。	年度当初(計画時)の打合せの他、評価等における打合せの場を設ける。	事業に参加する町民と学生の双方にとってよりメリットのある事業が展開できるよう改善点を抽出することができる。
評 価	年度初めに帯広大谷短期大学社会福祉科介護福祉専攻の専任教員と本会職員の打合せを設け、当年度の事業スケジュールや内容の確認と前年度の事業内容の評価を実施した。	前年度事業の評価を二者間で行なうとともに、該当事業毎に担当教員と連絡調整を密に行なった。	年間を通しての事業サイクルを確立することができ、参加する学生の負担の軽減を図ることができた。実施時期等細部においては更に改善を要する。
総合	小評価(5点)		
4	4	5	4

○総合評価～事業サイクルを確立した。学生の学びの観点から改善の余地があるため「4」

基本計画	2 地域づくりを主体的に担う人づくり
実践目標	地域福祉への理解の促進
実践計画(個別事業)	福祉教育の推進

令和5年度 事業目標	大谷短期大学と連携し、学校間の連携を模索しつつ、次代を担う子どもたちに福祉や障がい、ボランティアに対する理解を促す。
---------------	--

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	帯广大谷短期大学と連携し、社協の持っているスキルと用具を活かし、町内各学校の福祉教育の推進を支援する。	校長会議、教頭会議に出席し、福祉教育プログラムについて情報提供する。 各校のニーズに応じ、事前打ち合わせを行う。中学校の福祉学習へのニーズを調査する。 大谷短期大学と日程、内容の調整を行う。 各学校の福祉学習の授業を支援する。	昨年の実績を上回る授業回数を目指す。 ボッチャ体験の普及を図る。
評価	各学校のニーズに応じ、大谷短期大学と連携し、福祉学習を推進することができた。	校長会議、教頭会議で情報を提供した。 必要に応じ、直接面談によって事前打ち合わせを実施した。 中学校の教頭先生に出席いただき意見交流会を実施した。 大谷短期大学の都合に合わせて可能な範囲で協力をいただいた。 必要に応じ、本会職員が授業に参加し支援した。	音更中学校の福祉学習に協力した。 町内小中学校6校延べ34学級で福祉学習を実施した。 小学生対象のボッチャ体験学習を実施した。 下音更中学校の職場体験を受け入れた。
総合	小評価(5点)		
4	4	4	4

○総合評価～複式学級、中学校からのニーズも徐々に広がってきたため「4」

基本計画	2 地域づくりを主体的に担う人づくり
実践目標	地域福祉への理解の促進
実践計画(個別事業)	社会福祉士養成実習の受入れ

令和5年度 事業目標	効果的な実習プログラムの検討と受入れ環境の整備
---------------	-------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	相談援助実習を1大学1名受け入れる。 実習指導者2名を配置する。 環境整備として事務局内に実習生用の事務机を確保する。 ソーシャルワーク実習(新カリキュラム)受入れの準備を進める。	養成校との連絡を密にし、より効果的な実習プログラムを適切な時期に実施できるよう努める。	相談援助技術の基礎となる事項の学びと地域福祉のスペシフィックな事項の学びを促進させる。
評価	実習指導者講習会修了の職員を2名配置した。 相談援助実習(本実習)を大学(通学)から1名受入れた(旧カリキュラム)。	町を始めとする関係機関に指導の協力を求め、日常的な本会との連携を再確認できた。 コロナ禍以降の新たな実習プログラムとして、実践におけるICTの活用を取り入れた。	学生が設定する実習課題について、ソーシャルワーク理論(アプローチ)より整理することを促し、大学での学びと実践との繋がりを意識した指導を展開できた。 指導をとおしてPDCAサイクルに則り日頃の業務を再確認する機会となった。
総合	小評価(5点)		
5	5	5	5

○総合評価～コロナ禍の期間も含め、実習生に適切な指導ができていると判断し「5」

基本計画	3 安心して暮らし続けられる地域づくり
実践目標	権利擁護事業の推進
実践計画(個別事業)	日常生活自立支援事業

令和5年度 事業目標	不正防止に取り組むことで、安定的な事業運営を行うことができる。
---------------	---------------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	北海道社会福祉協議会の示すルールに則り、適正な支援を継続するために必要な人員を維持する。	職員・生活支援員の研修の実施・参加。 関係機関への事業周知。 職場内チェックの徹底。	不正防止を徹底することができる。 本事業の認知度が上がる。 適切な支援が継続される。
評価	指揮監督者1名、自立生活支援専門員3名体制にて事業を実施。人員体制は前年度と変わらないが、適切に相談対応、実務を行うことが出来た。	道社協主催の研修には指揮監督者、専門員、生活支援員が参加した。 相談内容に応じ相談者や関係機関にパンフレットを配布した。 毎月月末には不正な出入金がないか預かり通帳の確認を担当専門員以外の職員が実施し、内部けん制を行っている。	北海道社会福祉協議会の業務マニュアルに則り、不正事案もなく、相談及び支援を適切に行うことが出来た。 相談件数は7件。うち2件が新規契約となった。年度内の解約件数は1件。各関係機関から具体的な事業内容の問い合わせがあった。
総合	小評価(5点)		
4	4	5	4

○総合評価～業務はルールに則り適切に実施しているが、利用件数が少なく周知不足と考え「4」

基本計画	3 安心して暮らし続けられる地域づくり
実践目標	権利擁護事業の推進
実践計画(個別事業)	音更町成年後見サポートセンター

令和5年度 事業目標	中核機関の実務協議をすすめ、安定した相談支援体制の強化を推進していく。
---------------	-------------------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	複合的な課題に対応するために、安定した相談支援体制および必要人員について中核機関としての実務を明確にしながら委託元と協議をする。 広報機能を強化する。	広報機能を充実させるとともに、一次相談機関との相互連携を行いながら、早期に対象者への支援に繋がられるようにしていく。	サポートセンター相談件数実績延べ50件を目標とする。
評価	中核機関としての実務の明確化までは至らなかったが、所謂周辺事業について、次年度以降、委託元である町とともに検討することとなった。	サポートセンターパンフレットを役場、地域包括支援センター等に配布しているほか、社協だよりにサポートセンターの概要を掲載した。病院、施設、地域包括支援センターからの相談が多く、なかには重層的支援体制整備事業の取扱いで他機関連携でケースに対応することが出来た。	相談件数は延べ48件となった。成年後見制度概要や、相続、遺産分割、死後事務委任、任意後見制度など幅広い相談に対応した。
総合	小評価(5点)		
5	4	5	5

○総合評価～成年後見だけでなくその周辺業務についても対応しているため「5」

基本計画	3 安心して暮らし続けられる地域づくり
実践目標	権利擁護事業の推進
実践計画(個別事業)	法人後見

令和5年度 事業目標	安定した後見事務の継続と新規案件の受任
---------------	---------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	被後見人等の状況・状態にあわせた適切な法人後見支援員のマッチングにかかる法人後見支援員の台帳管理。	適切な後見事務を遂行するために必要な研修への職員の参加。 法人後見支援員登録者への意向確認。 法人後見運営委員会、法律相談員の設置。	適正円滑な法人後見事業の運営が継続される。
評価	被後見人の状態を勘案し、一部は法人後見支援員を選任せずに担当職員のみで実務を行なった。 コロナ禍の状況から入所・入院の被後見人等との面会が引き続き制限される状態が続いている。	被後見人の財産管理にかかり、事務局内部のチェック機能と法人後見運営委員会のチェック機能を有し、引続き適切な管理が出来ている。 職員では判断できない法的な対応を求められる相談案件について、法律相談員の助言ものと適切に対応できている。 平成24年度から29年度までに法人後見支援員に登録した者に対し、継続の意向確	既存の受任案件の後見事務を適切に行う他、1件の新規案件を受任した。
総合	小評価(5点)		
5	5	5	5

○総合評価～法人後見運営委員会などにより適切に業務が遂行されているため「5」

基本計画	3 安心して暮らし続けられる地域づくり
実践目標	権利擁護事業の推進
実践計画(個別事業)	死後事務委任・保証人機能補完事業の検討

令和5年度 事業目標	各種調査により、具体的な実務や課題の明確化を図る
---------------	--------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	より具体的な実務や課題等について、調査を進める。	死後事務に関する町内の需要を把握する為、質問紙法調査の実施計画を町関係係と協議する。 先進地視察により、具体的実務を把握し、課題を明らかにする。	実務や課題について整理し、より具体的な準備を進めることができる。
評価	先駆的な取組みをしている他市町村の情報を収集した。	インターネットを活用しての情報収集の他、富良野市社会福祉協議会の取り組みを視察した。	事務内容等について情報を収集することは出来たが、社会資源や行政との役割分担、補助等について、追加の調査と詳細な情報の整理を要する。
総合	小評価(5点)		
3	2	3	3

○総合評価～先進地を視察し情報収集できたが、事業化に向けては整理すべき課題がまだあるため「3」

基本計画	3 安心して暮らし続けられる地域づくり
実践目標	相談支援体制の強化・充実
実践計画(個別事業)	コミュニティサポート 見守り訪問事業

令和5年度 事業目標	安定的な活動調整と地域住民や関係機関への事業周知。
---------------	---------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計 画 ・ 目 標	担当職員を配置し、相談援助体制を整える。	必要に応じた相談支援を行う。 継続ケースのモニタリングの仕組みを検討する。	見守り訪問が円滑に行われる。
評 価	担当職員を配置した。	継続利用利用ケースについては、サポーターから報告を受けながら、必要に応じて連絡調整を実施した。 モニタリングの仕組みは設けていないが、利用者の状況に変化があった際には、本人や家族、サポーター等と相談しながら、対応している。	継続利用者5名(新規1名、年度途中修了者1名)、延べ訪問時間80時間の利用であった。
総合	小評価(5点)		
4	4	4	4

○総合評価～コミュニティサポーターの協力により業務を推進できている。利用件数がまだ少ないため「4」

基本計画	3 安心して暮らし続けられる地域づくり
実践目標	相談支援体制の強化・充実
実践計画(個別事業)	コミュニティサポート あんしんお預かり事業

令和5年度 事業目標	既存の制度・サービスでは対応できない金銭管理支援をとおして安心した生活 が維持できるよう柔軟な支援・管理体制を構築する
---------------	--

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・ 目標	既存の福祉サービス等の対応では難しいニーズへの柔軟な運用の検討。	相談内容に応じて、対象者、関係機関に対して事業説明を適切に行う。	相談件数の増加と対象者への状況に配慮した相談支援ができる。
評価	日常生活自立支援事業の支援方法に準じて、成年後見制度や日 事業生活自立支援事業の利用が 開始されるまで一時的な支援とし ての機能は果たすことができた。 本事業の機能強化については更 に事例を蓄積しながら検討する必 要がある。	既存の制度、サービスでの 金銭管理支援が難しい対 象者やその相談支援機関 に対して、事業内容を説明 した。	利用件数は1件。一時的な 金銭管理支援により、対象 者の安定した生活維持を 図ることができた。次年度、成 年後見制度利用に向けて 調整している。
総合	小評価(5点)		
4	5	4	4

○総合評価～公的制度のすき間を埋める事業として機能している。利用件数がまだ少ないため「4」

基本計画	3 安心して暮らし続けられる地域づくり
実践目標	相談支援体制の強化・充実
実践計画(個別事業)	コミュニティサポート 緊急時安否確認事業(モデル事業)

令和5年度 事業目標	課題の明確化と本事業化に向けた仕組みの再構築
---------------	------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	モデル事業の間の課題の整理と効果的な実施方法の再検討を行なう。	課題の整理と本事業化に向けた周知活動を行なう。	次年度から予定している本事業化に向けた最終準備ができる。
評価	1件契約終了。 2件新規契約のうち1件はモデル地区外の契約。	モデル地区での利用希望が低調なことからモデル地区外の利用申込みも1件受け、当該事業の本事業化に向け、事例の地区蓄積を図った。	本年度がモデル事業としての最終年度であったが、実利用者数が伸びなかったことにより十分な事例の蓄積がなく、本事業として取り組むまでの情報の収集が出来なかった。
総合	小評価(5点)		
2	3	3	2

○総合評価～利用件数がまだ伸びず本事業化に至っていないため「2」

基本計画	3 安心して暮らし続けられる地域づくり
実践目標	相談支援体制の強化・充実
実践計画(個別事業)	福祉用具の貸出

令和5年度 事業目標	要介護世帯が在宅で安心して生活するための一助になるよう十分な支援を行う
---------------	-------------------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	福祉用具各種について、スムーズな貸出しが行えるよう、在庫の確保と点検に努める。 老朽化した福祉用具の選別及び処分対応の実施。	申請により、それぞれの世帯の状況を踏まえスピーディーな対応に努める。 状況に応じて、各関係機関とも連携を取りながら支援を進める。	短期間ではあるが、在宅で安心して生活を送るための一助になるよう支援を行う。
評価	車いすの在庫は十分に確保できており、必要とされる方への貸出は待機無く行うことが出来た。各福祉用具の点検については貸出時に随時確認をし都度対応を行った。	特に特殊寝台を希望される際は、緊急で必要とされているケースが多いことから、担当者との間でスムーズなやり取りを心掛け、実施することが出来た。	車いす56回、ポータブルトイレ1回、特殊寝台2回を貸出。車いすの貸出については前年度より微減しているが、ケアマネを通して特殊寝台の利用もあり、利用者のニーズに即し、概ね安定した貸出を行うことが出来た。
	車いすの保管スペースに限りがあり、今後検討が必要と思われる。	本人からの申請以外に、ケアマネを通しての申請があった。	車いすについて、定期的な点検が必要であり、状況によっては修繕ボランティアの活用も検討する。
総合	小評価(5点)		
5	4	5	5

○総合評価～業者さんもスピーディーに貸し出しに対応してくれているため「5」

基本計画	3 安心して暮らし続けられる地域づくり
実践目標	生活困窮者の自立支援
実践計画(個別事業)	生活福祉資金貸付事業

令和5年度 事業目標	経済的に困窮している世帯に対し、必要となり得る資金の相談支援を行う。
---------------	------------------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計 画 ・ 目 標	貸付制度内容について、都度、正確に情報を整理し、的確な支援に努める。 北海道や民間で行っている他貸付制度の情報についても収集を行う。	相談者の状況や気持ちに寄り添った相談支援を心掛ける。 各関係機関との横の連携を心掛け、必要に応じて広域な支援を行う。	貸付を行うことで生活の安定や自立の向上を図る。 コロナ特例貸付利用者の免除・猶予申請支援等、貸付後の自立に向けた支援策の充実。
評 価	債務者に対する償還事務について、債権管理業務のシステム化が進められており(コロナ特例では一部実施)、事務作業が煩雑化しないよう、都度、道社協に確認をしながら整理に努めた。	相談内容によっては、貸付対象とならないケースもあったが、他制度で活用できるものがないかを検討し、出来る限りの支援に努めた。	緊急小口資金3件(うち2件決定)の受付実績となった。未だコロナ特例債務者からの相談(生活相談、償還猶予・免除相談)が続いており、状況に応じて貸付制度以外の支援についても対応を行った。
	会計事務所の調査により貸付事務費が「非課税仕入」であることが判明し、これまで納めていた消費税の返戻請求を行う形となり、一部、会計上の認識不足があった。他制度の貸付制度については、相談に応じて調査をし、情報提供を行った。	各関係機関と情報共有を行い、特に自立相談支援事業所とは密に連携し、ケースの支援を行った。	自立相談支援事業と連携をし、家計支援、就労支援に努める等、相談者の今後の自立に向けた一助となった。
総合	小評価(5点)		
5	4	5	5

○総合評価～コロナが5類に移行しても相談は途切れず、「返済の相談、他制度につなぐなどできているので「5」

基本計画	3 安心して暮らし続けられる地域づくり
実践目標	生活困窮者の自立支援
実践計画(個別事業)	生活困窮者に対する安心サポート事業

令和5年度 事業目標	生活困窮世帯に対し、ライフラインの確保を優先とした支援に努める。
---------------	----------------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	本事業を利用することで、世帯の生活安定と自立に繋がるか、十分に見極めて相談に応じる。	自立相談支援事業所を始めとする関係機関と十分な連携を取りながら相談支援に努める。	単に給付のみで終わるのではなく、その後の世帯の自立に向けて継続的に支援する。
評価	相談者の生活状況、背景等を調査・聞き取りのうえ、本事業が本人の自立に繋がるかを十分精査し実施した。	ケースそれぞれの状況に応じ自立相談支援事業所と協働で多面的な支援に努めた。	6件の利用実績となった。食料品や日用品についてはフードバンク事業で支援をしたケースもあり、本事業では優先的に光熱水費や家賃等のライフラインの確保の支援を行った。
総合	小評価(5点)		
5	5	5	5

○総合評価～コロナ以降相談が増加し、つなぎの支援として実施。他制度につなぐなどできているので「5」

基本計画	3 安心して暮らし続けられる地域づくり
実践目標	生活困窮者の自立支援
実践計画(個別事業)	応急生活資金貸付事業

令和5年度 事業目標	生活困窮世帯に対して、一時的な資金の貸付を行うことで生活の安定を目指す。
---------------	--------------------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	本事業を利用することで世帯の生活の安定に繋がるか聞き取りを行いながら見極め、現状の申請者についてはほぼ生活保護受給世帯であることから、本資金利用の必要性について福祉事務所の見解を十分に確認のうえ、相談支援にあたる。償還困難世帯への対応について協議。	貸付対象となり得る際は、福祉事務所と十分に連携を行いながら貸付に向けての支援に努める。また、対象にならない場合についても、フードバンク等の利用を勧める等、相談者に寄り添った支援を心掛ける。経理上、「徴収不能引当金」計上し、引き続き郵送等で指導を続ける。	償還については原則生活保護費からの代理納付とするが、負債が世帯の生活にとって大きな負担にならないよう、必要最低限の貸付とし、必要によってはフードバンクを利用することで生活の安定を目指す。状況よって、決算の段階で徴収不能額としての処理を検討。
評価	相談があった際は、まず担当CWへの見解を確認し、その後、聞き取りにて生活状況を見極めたうえで、他制度の利用も検討し実施をした。特にフードバンク事業開始以降、本事業の利用は減少傾向にある。	福祉事務所との協働で相談にあたり、本人の状況に寄り添った支援に努めた。償還途中で本州へ転居した世帯への対応について、督促状を送付するも応答がない状況であることから、徴収不能として計上することを検討すべきだが、年度内でその処理に至らなかった。	5件の利用実績(全て生活保護世帯及び生保申請世帯)となった。前年度より6件の減少となったものの、他事業を活用することで、世帯の自立に繋がったケースも多くあった。滞納世帯(1件)の対応については、今後の償還は薄いと判断されることから、令和6年度中に徴収不能額として決算処理を検討いたしたい。
総合	小評価(5点)		
4	4	5	4

○総合評価～フードバンク事業により利用数は減っている。滞納世帯(1件)の処理が残っているので「4」

基本計画	3 安心して暮らし続けられる地域づくり
実践目標	生活困窮者の自立支援
実践計画(個別事業)	フードバンク事業

令和5年度 事業目標	安定した供給物品の確保と、切れ目のない生活支援
---------------	-------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	財源の確保及び安全な食材の管理。	町内スーパーを始め、関係機関、一般町民に向けての寄付の呼びかけ。	相談者が必要している物品を常備し、生活の安定への一翼を担えるよう事業推進に努める。
評価	町の支援もあり、食材保管室が整備されたことで、多くの食材や日用品を安全に保管することが出来た。	様々な媒体を活用しての協力要請により、町内スーパーや一般企業、福祉関係団体、町備蓄品等の提供があった。不足物品については本会で購入し、切れ目ない支援に努めた。 (赤い羽根助成金を活用)	寄付受入は147件となり、安定した食材確保に努めることが出来た。
	本事業が町民に広く周知されたことで、多くの寄付が寄せられた。賞味期限の管理方法については検討が必要と思われる。		延124回の支援を実施。利用者への生活安定の一助になっているものの、一部、再延長後の利用希望もあり、そのような世帯に対する支援として、引き続き関係機関内での横断的な対応が必要といえる。
総合	小評価(5点)		
5	4	5	4

○総合評価～自立に向けて継続的な支援が必要なケースもあるが、事業全体としては「5」

基本計画	3 安心して暮らし続けられる地域づくり
実践目標	災害に備えた体制整備
実践計画(個別事業)	災害ボランティアセンターの設置運営準備

令和5年度 事業目標	有事の際のセンター設置に向け、研修を通じて担当職員及び町民への意識付けを行う。
---------------	---

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	「音更町災害VC設置・運営マニュアル」に基づき、研修の内容について内部協議。	開催に向けて、各関係機関との打ち合わせの実施。	有事の際の設置に向けて、研修を行い、職員及び参加者の意識付けに努める。(1月予定)
評価	東日本大震災の際に災害VCを運営された宮古市社協職員を講師とし、講義及びシンポジウムの内容により実施の方向で検討。	宮古市社協、道社協、町危機対策課と密に協議を重ね、研修に備えた。周知についてはHPや新聞紙面の他、町内会、老人クラブ、サロン、管内社協等、多岐に亘って情報提供を行った。	災害VC研修会については、175名が参加。設置運営の経験に基づく内容から、広く町民の意識付けを行うことが出来た。またシンポジウムを通じて、道社協や音更町との間においても、有事の際の対応について共有をすることが出来た。また音更町主催の防災訓練時(9月開催)に災害VCブースを設置し、啓発に努めた。
総合	小評価(5点)		
5	5	5	5

○総合評価～町の防災訓練、社協の災害VC研修会などで充実した取り組みができていますので「5」

基本計画	4 地域に理解され支持される社協づくり
実践目標	地域に理解される社協づくりの推進
実践計画(個別事業)	社協だより・ホームページ

令和5年度 事業目標	効果的な事業周知と広報紙の構成の検討
---------------	--------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	定型的な記事の掲載方法を見直し、より効果的な広報を行なう為、全体の構成を検討する機会を事務局内で設ける。	広報に関する事務局内での検討の機会を設ける。 ホームページ更新状況を定期的に確認する。	各事業に好影響を与える記事のあり方や住民に興味を持ってもらえる広報紙作成に努めることで、本会の各種事業への参加や問い合わせが増加し、本会活動への住民理解が促進される。
評価	社協だよりを年度内4回発行した他、発行月に間に合わない事業に関しては、個別にチラシを作成し、周知を行なった。 事業の案内等についてホームページのトップページを活用した。	社協だより、ホームページ、チラシにより、適宜必要な情報を発信した。 ホームページに関しては最新の情報に更新されていない事業ある場合は、一旦削除する等の対応をした。	適宜情報発信を行なうことで、本会各種事業への住民の参加も一定数あり住民理解を促進することが出来た。
総合	小評価(5点)		
4	4	4	4

○総合評価～ホームページの情報更新などに努めてきた。まだ改善の余地があるため「4」

基本計画	4 地域に理解され支持される社協づくり
実践目標	地域に理解される社協づくりの推進
実践計画(個別事業)	SNSの活用

令和5年度 事業目標	若年層をターゲットにした情報発信の強化
---------------	---------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	情報を発信したいターゲット層を意識したツールの選択・導入。 SNSの適切な管理方法の確立。	若年層に普及率の高いInstagramの活用準備。 SNSの運用に関する適切な管理方法を職員間で共有する。	若年層をターゲットとした企画と情報発信に取り組むことにより地域福祉に関わる住民数が増加する。
評価	「Facebookページ運用方針」を作成し、ホームページに掲載した。	職員4名にFacebookアカウント管理権限を付与し、運用・管理を行なった。	一部の層においては本会の活動をより身近に感じてもらう事ができた他、国内同業者のフォロワーが増加した。
総合	小評価(5点)		
3	4	4	3

○総合評価～Facebookを運営しているが、若年層への情報発信には至っていないため「3」

基本計画	4 地域に理解され支持される社協づくり
実践目標	地域に理解される社協づくりの推進
実践計画(個別事業)	福祉まつり

令和5年度 事業目標	人と人との繋がりを絶やさない交流の場を企画し実施する。
---------------	-----------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	5年度においてもコロナの状況から、引き続き「福祉フェスタ」の形で規模縮小のうえでの実施とし、大枠について内部協議をする。	具体的な内容について、役員及び出展団体と協議。特に飲食の出展については状況を踏まえて判断する。	従来からの規模は縮小するが、イベントを通じて、参加者が楽しみながら福祉への理解に資することを目指す。また感染防止に十分に努める。
評価	理事会で協議をした結果、コロナが5類に移行したものの従来の形に戻すことは時期早々の意見から、前年度に引き続き「おとふけ福祉フェスタ」として開催をする運びとなった。	前年度と同様に福祉色の高い内容とし、イベントを通して、楽しみながら「福祉」を身近に感じてもらえるような内容を心掛けた。出展については町内福祉関係団体へ参加希望をとり、前年度よりも多くの出展となった。	当日は多くの来場があり、映画上映についてもほぼ満席に近い状況であった。出展者、来場者からも好意的な意見が多く、概ね目的どおりの成果となった。ただし出展内容によっては、来場が限られたブースもあり、次年度に向けての課題も残った。 その後の理事会では、次年度以降も「フェスタ」の形を維持し、現在の内容を踏襲しながら福祉関係団体(当事者団体等)のPRの場にもなるよう、進めることとなった。
総合	小評価(5点)		
5	5	5	4

○総合評価～福祉に特化した内容で実施し、概ね高い評価をいただいているので「5」

基本計画	4 地域に理解され支持される社協づくり
実践目標	地域に理解される社協づくりの推進
実践計画(個別事業)	出前講座

令和5年度 事業目標	講座メニューの再検討と周知の強化
---------------	------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	昨年度に引続き、参加しやすい体験型の講座であるユニバーサルスポーツの促進に取り組む他、従来の座学メニューの再検討を行なう。	本会各種事業を通じて、出前講座の内容に関する住民ニーズを把握するとともに、出前講座の周知を行なう。	出前講座の依頼件数の増加により、本会や地域福祉に関する住民の理解促進につながる。
評価	出前講座一覧を用意した。ユニバーサルスポーツ体験会を開催した。	出前講座一覧を本会「いきいきガイド」やホームページに掲載した他、音更町の各単位老人クラブへ配布した。ユニバーサルスポーツ体験会を2回開催し、本会職員を講師派遣しなくてもユニバーサルスポーツに取り組めるようルール説明等を町内各種団体向けに行なった。	座学の出前講座は低調であった。前年度後半より取り組みを開始したユニバーサルスポーツについては多くの依頼があっが、本会事業活動や地域福祉に関する理解を促進する等の本来の目的を達成することには直接的な効果があったかは疑問が残る。しかし、地域交流の促進の一助としての機能は果たしている。
総合	小評価(5点)		
4	4	4	4

○総合評価～コロナ禍等により座学は減少しているが、その後ユニバーサルスポーツの依頼が増えているため「4」

基本計画	4 地域に理解され支持される社協づくり
実践目標	健全な財務運営と財源の安定的確保
実践計画(個別事業)	会費・寄付の確保

令和5年度 事業目標	安定した運営に向けて、会費及び寄付金の確保に努める。
---------------	----------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計 画 ・ 目 標	社協だよりを通じた寄付金及び会員加入の呼びかけ。	社協だよりにおいて、寄付者と会員加入状況を掲載するほか、高額寄付者についてはイベント開催時に表彰の場を企画。	安定した運営に向けて、寄付金や会費の確保に努める。
	推進員制度のあり方について検討。(他市町村社協での会費納入方法を調査)	内部協議を実施し、理事会での意見を踏まえて次年度に向けて検討をすすめる。	令和6年度からの方向性について、整理を行う。
評 価	社協だよりにより、会員加入及び寄付金の呼びかけを行った。推進員の推薦については181の町内会へ依頼したところ50名(40町内会)の推薦あり。全町内会の20%程度の推薦に留まった。また管内社協に対し、会員加入及び会費納入状況を調査し、15市町村より回答をいただいた。(その後、管内社協へ調査報告)	福祉フェスタ会場にて、高額寄付者に対する表彰を実施した。また社協だより紙面において、寄付者の一覧を掲載し周知を行った。7月に開催した「推進員会議」においては推薦者の半数である26名の出席に留まった。	寄付金については1,118千円の実績。前年度より約45万円の減少であったが、このことについては物価高騰等の影響も考えられる。寄付内容についてはフードバンクや子ども食堂等、生活困窮世帯に対する指定寄付や、また寄付金に代わり、食材等の現物での寄付も多くみられた。会費の納入実績については824,000円と、前年度より64,000円の減少となった。会員加入及び推進員の役割については令和5年度中の具体的な整理には至らなかった。
総合	小評価(5点)		
2	2	2	2

○総合評価～会員加入、会費納入が少ない。企業からの協力、推進員制度の見直しが課題のため「2」

基本計画	4 地域に理解され支持される社協づくり
実践目標	健全な財務運営と財源の安定的確保
実践計画(個別事業)	共同募金運動のみえる化

令和5年度 事業目標	共同募金委員会と連携し、PRの強化等について検討する。
---------------	-----------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	募金額確保のため、独自で ご当地ピンバッジの作成と赤 い羽根特別企画の開催を検 討。また社協だより紙面を活 用してのPRを実施。	イベント等を通じての頒布活 動の実施及び9月末発行の 社協だよりでの周知。	各種募金活動やピンバッジ 購入や特別企画を通して、 募金活動の理解を得る。
評価	コロナが5類移行したことに 伴い、社会的情勢に見合っ たご当地バッジを作成しPR に努めた。また、町内小中学 校へ街頭募金活動のPRを 行った。	ガチャガチャ機械を購入し、道 の駅へ設置し頒布に努めた ほか、イベント時に特別企画 を実施し、募金実績の増加 に努めた。	各種ピンバッジ1,035個を頒 布し261,100円の実績、特別 企画では2回の開催で82,500 円の実績となった。その他、 町内小中高校5校が街頭募 金活動に取組み、募金活動 のPRに繋がった。当初の目 標額については今年度も更 新することが出来た。
総合	小評価(5点)		
5	5	5	5

○総合評価～寄付金付きピンバッジ、興行募金、学校による街頭募金などにより見える化が進んできたため「5」

基本計画	4 地域に理解され支持される社協づくり
実践目標	健全な財務運営と財源の安定的確保
実践計画(個別事業)	中長期的な財政計画の検討

令和5年度 事業目標	財源の確保と中長期的な財源のあり方について検討する。
---------------	----------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	理事会・評議員会において適切な財政のあり方について協議。また町の担当部署との間で今後の運営ビジョンについて協議、検討を行う。	適切な事業運営を行うとともに、中長期的な事業運営について町と協議を重ねて、財源の確保を目指す。	決算状況を踏まえて、次年度以降の事業執行について協議検討しながら予算編成を行う。
評価	理事会・評議員会において適切な財政のあり方について協議し承認をされた。また、事業内容に応じて町担当部署との協議を行った。	本会が目指す中長期的な運営ビジョンについて、内部検討をしたほか、町との協議を重ねた。	補助金、受託金による人件費の確保と、コロナ特例貸付償還事務費の交付もあり、財政面は概ね安定の見込である。ただし運用方法については今後の検討が必要。
総合	小評価(5点)		
5	5	5	5

○総合評価～今後についての検討は必要だが、現時点では安定的財政運営ができているので「5」

基本計画	4 地域に理解され支持される社協づくり
実践目標	地域福祉を支える団体の支援とネットワークづくり
実践計画(個別事業)	共同募金委員会

令和5年度 事業目標	目標額達成に向けた取り組みの充実と適切な助成金の交付に努める。
---------------	---------------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	<p>共募理事会・評議員会において適切な目標額の設定について協議。</p> <p>募金額確保のため、独自でご当地ピンバッジの作成と赤い羽根特別企画の開催を検討。</p>	<p>目標額達成に向けた各種取り組みの実施。</p> <p>イベント等を通じての頒布活動の実施。</p>	<p>目標額の100%以上の達成を目指す。</p> <p>ピンバッジ購入や特別企画を通して、募金活動の理解を得る。</p>
評価	<p>共募理事会・評議員会において目標額を承認いただき、活動に取り組むことが出来た。</p>	<p>目標額達成に向けた各種募金活動の取組みを行った。</p>	<p>3,498,411円の募金実績となり、103%の達成率となった。各種活動により、赤い羽根共同募金の理解に努めることができた。</p>
総合	小評価(5点)		
5	5	5	5

○総合評価～いろいろな取り組みを実施し、ここ数年目標額を上回る実績となっているため「5」

基本計画	4 地域に理解され支持される社協づくり
実践目標	地域福祉を支える団体の支援とネットワークづくり
実践計画(個別事業)	老人クラブ連合会

令和5年度 事業目標	あり方検討委員会を踏まえた事業実施の検討を進める。
---------------	---------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計 画 ・ 目 標	事務局担当職員を配置する。役員会を配置する。	役員会や各事業の実施のために必要な準備、調整を行う。既存の事業の見直しや必要な取り組みについて検討を進める。	各事業が円滑に実施される。令和6年度以降について、既存の事業の廃止や新規事業の実施等について決定する。
評 価	事務担当職員を配置した。役員会を設置した。	役員会を4回開催し、事業を進めた。その他、正副会長との打ち合わせを実施するなどして必要に応じた連絡調整を行った。	いくつかの新規事業を実施できた。既存の事業の廃止については議論が進んでいない。老人クラブあり方検討委員会を踏まえた議論は進んでいない。
総合	小評価(5点)		
4	5	3	3

○総合評価～事務局業務は推進できている。あり方検討委員会を踏まえた事業の見直しが進んでいないため「4」

基本計画	4 地域に理解され支持される社協づくり
実践目標	地域福祉を支える団体の支援とネットワークづくり
実践計画(個別事業)	町内社会福祉法人連絡会

令和5年度 事業目標	町内の社会福祉法人が相互に連携・協力する体制を構築し、各法人の円滑な運営に資する。
---------------	---

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	定例会の会議を開催するほか、必要に応じて臨時の会議を開催し、相互に連携・協力する体制を構築する。	各法人で取り組む地域公益活動について交流する。 各法人の抱える課題の交流をする。 本会の事業への協力体制について協議する。	各法人のウイズコロナ下での地域公益活動について交流する。 各法人の抱える課題について交流する。 フードバンク事業、第2回福祉フェスタへの協力体制について確認する。
評価	11月に第1回の定例会を実施した。	各法人の抱える課題と解決改善について交流した。 福祉フェスタに参加した法人から感想・意見をいただいた。 フードバンク事業に関わり、社協から提供できる物について情報提供した。	各法人による地域公益活動は、コロナ禍でも継続しているため交流は省略した。 各法人の課題の人材確保の取り組みについて交流した。 フードバンク事業に関り、本会からLL牛乳を提供した。 福祉フェスタ、法人見学、車いす寄付について意見交流した。
総合	小評価(5点)		
4	4	4	4

○総合評価～コロナ禍以降定例会にて各法人の課題を共有している。見学会が実施できていないため「4」

基本計画	4 地域に理解され支持される社協づくり
実践目標	地域福祉を支える団体の支援とネットワークづくり
実践計画(個別事業)	地域福祉活動補助金交付事業

令和5年度 事業目標	地域福祉活動を実践する団体へ活動補助金を交付し、安定した運営への一助とする。
---------------	--

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	地域福祉活動を実践している町内4団体へ、活動費の一部を補助する。	申請内容を精査し、補助金を交付。決算時に活動報告書(決算書)を提出いただき、内容を確認する。	補助金を交付することで、安定した運営が図られる。
評価	町内4団体へ、活動費の一部について補助金の交付を行った。	補助金を交付後、決算時に活動報告書(決算書)を提出いただき、内容を確認した。	補助金を交付することで、それぞれ安定した運営が図られた。
総合	小評価(5点)		
5	5	5	5

○総合評価～問題なく助成金を交付し決算書・活動報告を提出いただいているので「5」

基本計画	4 地域に理解され支持される社協づくり
実践目標	役職員の資質向上
実践計画(個別事業)	役職員の計画的な研修

令和5年度 事業目標	コロナの状況を踏まえ、可能な形での研修を実施する。
---------------	---------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	ウイズコロナの状況で実施可能な形の研修機会を設定し、参加を呼び掛ける。	Zoomによるオンライン研修会、理事会などの会議との併催を検討する。	コロナの状況を踏まえ、1回以上研修機会を設定する。
評価	本会の理事会に併せて研修会を実施した。	令和5年度の事業計画をもとに本会の4部門の各事業について理解を促した。	新しい役員を含め、全役員で本会の取り組んでいる事業について理解を深めた。
総合	小評価(5点)		
3	3	3	3

○総合評価～役員の改選に合わせ社協の事業について研修を実施した。機会・内容の充実が必要なため「3」

基本計画	4 地域に理解され支持される社協づくり
実践目標	役職員の資質向上
実践計画(個別事業)	専門性を担保した職員の育成

令和5年度 事業目標	自己研鑽・相互研鑽により一人一人の専門性の向上を図る。
---------------	-----------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	ソーシャルワークの資質・技能向上のための研修会への参加を促す。 職場内でのOJTの機能を活かし資質・技能の向上を図る。	道社協主催の研修、社会福祉士会等の研修への参画を支援する。 職場内でのOJTに努める。	相談援助実習の依頼があれば、その指導を通して、職員の資質向上を図る。 一人一回以上研修に参加する。
評価	職員が各自の業務を自覚し、自主的に研修に参加した。 闊達に意見交換できる職場環境づくりに努めた。	職員同士の「振り返り」の取り組み等により、その後の業務への見通しを持った。 研修に参加しやすい職場づくりに努めた。 専門職員による先進地視察を実施した。	各職員とも積極的に研修に参加した。 相談支援実習、中学生の職場体験、他地区社協等の視察訪問等で、本会の事業を説明することが、職員の研鑽につながった。 富良野市社協を視察し、今後の本会の事業推進に示唆を得た。
総合	小評価(5点)		
4	4	4	4

○総合評価～職員自ら研修に参加したり視察し研鑽を深めている。新人の育成がこれからなので「4」

基本計画	4 地域に理解され支持される社協づくり
実践目標	役職員の資質向上
実践計画(個別事業)	働きがいのある職場環境づくりの検討

令和5年度 事業目標	職員との面談等により、働きがいのある職場環境づくりを検討する。
---------------	---------------------------------

	Structure(構造)	Process(過程)	Outcome(成果)
計画・目標	職員との面談、メンタルヘルス、行政との協議等により、働き甲斐のある職場環境づくりを検討する。	職員との面談を定例化する。 全職員のメンタルヘルスチェックに取り組む。 効率的な人員配置について検討する。	職務上の課題や悩みを把握する。 職員に自身の心身の状態を把握してもらう。 職員増を想定し、職務の分担と平準化を検討する。
評価	職員との面談、メンタルヘルス、行政との協議を実施した。	定期的な職員との面談を目指した。 全職員がメンタルヘルスチェックに取り組んだ。 今後の職員体制と事務分掌について職員間で検討した。	定期的に面談を実施し、業務上の課題、業務推進に関わる体調の課題などを把握した。 職員全員にメンタルヘルスチェックを実施した。 令和6年度から職員を増員することを踏まえた事務分掌を整えた。
総合	小評価(5点)		
3	3	3	3

○総合評価～定期的な面談を実施できたが、年間スケジュールが確立できていないため「3」